

議長（茅根猛君） 次，5番鈴木二郎君の発言を許します。

〔5番 鈴木二郎君登壇〕

5番（鈴木二郎君） 5番，鈴木二郎でございます。議長にお許しをいただきましたので，通告順に従い質問してまいります。

1番目，まちのにぎわい活性化について。

東日本大震災による被害は，当市においても大きな損害をもたらしました。さらに，福島第1原発事故による風評被害は，農業，観光を初め，多方面にわたり大きな影響をもたらしてあるところであります。市民においては，精神的，経済的に大きな被害を受けるとともに，市内観光地においては来訪者が大幅に減少するなど，その対応，対策が急務となっております。このような状況にあって，風評を払拭し，市民交流，観光交流を促進してまちのにぎわいを創出し，市民や地域の元気や活力を取り戻していくことは大変重要なことであると思っております。

さらに，昨年7月の市民アンケートにおいても，魅力ある商店街の整備は市民の73%が重要と回答しており，商店街の整備に対し不満を感じている人は45%を占め，行政に対する不満項目の理由となっております。また，JR太田駅周辺，鯨ヶ丘，国道349号沿線の利便性やにぎわいについても，市民の69%が整備の重要性，必要性を示しており，不満であると感じている人は43%に及んでおります。

このようにアンケート結果からもわかるように，現在の常陸太田において，魅力ある商店街や商業施設を整備，誘致し，若者からお年寄りまで楽しくショッピングや交流ができるまちづくりが大変重要であり，まちの活性化につながるものと考えられます。このようなことから市民交流や観光交流促進によるにぎわい創出について，2点お伺いをいたします。

1点目は，駅前周辺のにぎわいと観光交流促進であります。1つ目として，JR常陸太田駅及び周辺のにぎわい創出についてお伺いをいたします。JR常陸太田駅は市の新しい玄関口として整備され，安全で明るく，快適，便利な駅としてリニューアルされました。また，駅周辺の道路も安全で効率的，効果的に整備され，駅前の交通渋滞も緩和され，道路環境も大変よく改善されました。しかしながら，整備され，改善された駅及び駅周辺に，朝晩以外は人々の姿が見られず，若い人たち，観光客，JRの利用者もまばらで少なく，寂しく感じられます。

駅前には市の玄関口でもあり，市の顔でもあります。せっかくリニューアルされた，きれいになった駅周辺に市民や観光客の人々が集い，にぎわいが創出され，市民交流や観光交流を促進し，まちの元気や活力を取り戻すためには絶好の場所であり，機会でもあると考えられます。市民交流や観光交流の促進によるにぎわいの創出のためには，ハード面とソフト面の両面にわたって一体となった整備，充実が必要であり，重要と思っております。

例えば，ハード的には駅前東側周辺の整備，市や県内外からの来訪者に対する観光案内板の充実や，食事や喫茶のお店，お土産店等の整備や，学生や若い人が集い，コミュニケーション，交流が図れるコーナーや店の誘致などが要望としても聞かれます。ソフト的には駅前広場を利用した各種イベントの開催，さらには鯨ヶ丘内や近隣の観光史跡地をめぐる循環バスの運行と，若い人が集い，市外からの来訪者に対しおもてなしの心が感じられる施策が必要と考えますが，

駅及び周辺のにぎわい創出についての現状と計画について、どのように考えておられるのかお伺いいたします。

2つ目は、観光交流の促進や駅周辺のにぎわいを作り出すためには、JR水郡線の利用促進を図っていくことが必要不可欠と考えます。JR水郡線の利用促進につきましては、日立電鉄線が平成17年をもって廃線となり、市民生活に大きな支障を来していることから、JR水郡線の運行維持促進は必須事項であり、大変重要な基本計画の位置づけにあるもので、推進されておるところであります。このJR水郡線の利用動向、課題、さらに今後の利用促進策についてお伺いをいたします。

3つ目は、観光、歴史的遺産、史跡地等のおもてなしの心のこもった環境整備対応についてお伺いをいたします。市内には、観光地や文化財、歴史的史跡、建造物も数多く有しております。これらの恵まれた観光、歴史資源を、市や県内外のより多くの人々に来ていただき、観光交流人口の拡大を図っていくためには、来訪者へのおもてなしが感じられる観光施設等の整備充実が大切と思われまます。しかしながら、市内の観光史跡地において数多くの来訪者があるものの、整備が十分でないと感じられるものが見受けられます。

例えば、国指定の文化財の佐竹寺は、坂東三十三番札所の二十二番札所ということもあり、全国から非常に多くの個人や団体が毎日のように訪れております。このように多くの来訪者があるにもかかわらず、来訪者のためのトイレや休憩所がなく、特にバス等で来られた人数の多いときの対応には問題があるものと思われまます。さらに駐車場も狭く、大型バスや自家用車が集中した場合、これらの対応整備が望まれます。また、このように全国から来られる大勢のお客さんに対し、常陸太田市を知っていただく絶好の機会でもあり、休憩所や観光案内板を設け、パンフレットによるPRや市産品、特産品の直売等が望まれます。

さらには、西山荘、桃源についても、初めての来訪者に対し、道順がわかるように順路表示の整備や、十分な説明と解説ができる知識を有し、接客コーディネート等できるようなハードとソフト面の充実が望まれます。そしてさらには、長谷町の日本最古のカンブリア紀の地層の観光コースの開発、整備についても、常陸太田市の観光スポットとして強く期待されるところであります。以上の事例のように、観光史跡地のおもてなしの心が感じられる環境整備対応について、どのように考えておられるのかお伺いをいたします。

次に2点目は、国道349号バイパス沿線のにぎわい創出取り組みについてお伺いをいたします。先ほど冒頭で申し上げましたとおり、市民アンケートからも、国道349号線バイパス沿線のにぎわいや利便性を望む声は、大変大きいものがあります。常陸太田において魅力ある商店街や商業施設地区は余りなく、若者からお年寄りまで楽しく生き生きとショッピングや食事をしたり、みんなで集まって交流することが見受けられないように感じられます。市内在住者であっても、近隣の常陸大宮市や那珂市の、比較的交通の利便性がよく、大型店やいろんな店があり、大変便利で品物がそろい、にぎやかでショッピングや食事が楽しめる商業施設の整備されたバイパス通り等へ行くのが現状であります。

魅力ある商店街を開発整備し、商業施設を誘致することによって、市内を初め他の市町村か

らも集客し、交流人口を増やし、まちのにぎわいと利便性を向上させることは、定住人口の増大と転入者の増加にも大きな効果があるものと期待されます。このような観点から、将来、常陸太田市の商業施設地区の中心と考えられる349号バイパス沿道の、都市的土地利用等によるにぎわい創生と利便性の向上活性化の取り組み計画についてお伺いをいたします。

2番目、資源リサイクルとごみ処理コスト低減についてお伺いをいたします。

財政の厳しい状況にあって、業務改革や経費の削減を図ることは必須事項であります。このような中において、予算的にも比較的多額なごみ処理経費の削減を進めることは、支出の改善を図る上で大変重要なことと思われれます。また、資源リサイクルは、循環型社会における環境保全やレアメタル等の枯渇と入手困難に対応するためにも、鋭意取り組むべきではないかと考えます。このようなことから、資源リサイクル、ごみの減量化と再利用、ごみ処理コストの低減についてお伺いをいたします。

1点目、都市鉱山リサイクルの取り組みについて。地球温暖化を防止するためには、低炭素社会の実現が不可欠であります。一般に金属を生産するためには、鉱石を採掘し、選鉱や精錬をしなければならず、膨大なエネルギーを必要とします。さらに携帯電話等、小型電子機器に欠かせないレアメタルと言われる金、パラジウム等は、埋蔵量が少ない上に、特定の国に偏在し、需要の増加によって価格も高騰しております。世界最大のレアメタル消費国である日本の使用済みIT電子機器、小型家電製品には大量の貴金属やレアメタルが含まれており、これらのリサイクル可能な資源を都市鉱山と呼び、そのリサイクルが進められておるところであります。

例えば、鉱石1トンから採取できる金はわずか5グラムであります。1トンの携帯電話からは200から300グラムの金が採取可能と言われており、現在国内で使われている携帯電話は1億5,000万台あり、これは3ないし4トンの金が含まれている計算になるとのことで、大変多くの都市鉱山があるわけであります。今まで燃えないごみとして処理されていた廃棄物からレアメタルを再生し、リユースする循環型社会の事業が行われております。この都市鉱山リサイクルの取り組みについて、2点お伺いをいたします。

1つ目は、常陸太田市における都市鉱山のリサイクルの現状についてであります。レアメタル等が含まれていると考えられる携帯電話、デジタルカメラ等の小型電子機器の排出量はどのくらいあるのか、またその回収処理はどのように行われ、対応されているのか。リサイクルの現状についてお伺いをいたします。

2つ目は、資源の少ない日本にとって、特に貴金属といわれるレアメタルはそのほとんどを輸入に頼っており、資源を確保する上からも、またリサイクルに対する市民の理解と意識高揚面からも、その量に関係なく都市鉱山リサイクルを推進すべきと考えますが、これらに対する考え、取り組み計画についてのご所見をお伺いをいたします。

2点目、ごみ減量化、再利用の取り組みについて。ごみ減量化、再利用化を図ることは、ごみ処理費用の低減及びCO₂排出量を削減し、循環型社会を推進する上で、非常に有効であり、重点的な取り組みが必要と考えられます。ごみ減量化のためには、ごみの分別収集、生ごみの

堆肥化，ごみの再生利用化，再使用等を促進することが重要であると思われます。鋭意ごみの減量化，再利用促進に取り組んでおられるものと考えますが，2点お伺いをいたします。

1つ目は，ごみ減量化と再利用化の現状と課題についてお伺いをいたします。

2つ目として，ごみ減量化と再利用化の促進施策について，具体的にどのように取り組んでいくのかお伺いをいたします。

3つ目 焼却場のコスト低減についてお伺いをいたします。ごみ処理費の低減を図ることは，厳しい財政にあって重点的な取り組みが必要な課題であります。常陸太田市のごみ処理費は，予算ベースで見えますと，平成21年7億7,800万円，平成22年7億1,900万円，平成23年6億8,100万円，平成24年予算ベース7億1,800万円と大変大きな金額であります。これらのごみ処理コストの低減策について，2点お伺いをいたします。

1つ目は，ごみ処理費において高額で構成比率の高いものとして，炉の運転管理費，焼却炉補修費，光熱水費，ごみ収集業務費が挙げられますが，この中でごみ処理費用の50%を占め，金額の比率の高い炉の運転管理業務委託料，炉補修工事費の見直し検討を進めることが，低減を図る上で効果的，効率的と思われます。この炉の運転管理費委託料，炉補修工事費の費用の推移と費用低減取り組みの現状についてお伺いをいたします。

2つ目は，炉の運転管理委託料，炉補修工事費を含め，今後焼却場全体のコスト低減に向けた取り組み施策について，どのように考えておられるのかお伺いをいたします。

以上で1回目の質問を終わります。ご答弁よろしくお願いをいたします。

議長（茅根猛君） 答弁を求めます。建設部長。

〔建設部長 菊池拓夫君登壇〕

建設部長（菊池拓夫君） まちのにぎわい活性化について，建設部関係のご質問にお答えいたします。

初めに，駅周辺及び観光交流促進についての中での，JR常陸太田駅及び周辺のにぎわい創出でどのような取り組みをしているのか，現状と課題，計画についてでございます。駅周辺地区については，市の玄関口として商業，観光機能の充実を図るため，本市のシンボリックな地区として整備を進めているところでございます。しかしながら現状は，土地の利用の面から見ますと，日立電鉄線跡地と未利用地となっている箇所が多く残っており，商業施設をいかに集積するかという課題を抱えております。土地利用を促進するには，民間業者によります開発が効果的と考えられるのですが，その中で特に駅の東側については，商業スペースとして位置づけておりますことから，民間業者を積極的に誘致する考えでございます。引き続き，積極的に各方面に働きかけ，市民の期待するような土地利用を推進し，にぎわいのある良好な環境づくりを誘導してまいります。

次に，国道349号バイパス沿線の活性化取り組みについてお答えいたします。都市計画マスタープランに，市役所庁舎から東側の国道349号バイパス沿線地区は，都市サービスの向上を図る地区として，大型商業施設や工場，研究施設などの計画的な立地誘導を行い，周辺環境との調和のとれた土地利用を促進する地区として位置づけております。この地区にはこれま

で数社から、大型商業施設の出店に関する問い合わせがあり、協議検討を進めてまいりました。しかしながら、計画実現には農地転用などさまざまな課題がありますことから、計画を着実に推進させるため、本市の中に関係部課で構成する常陸太田地区計画策定委員会を設置したところでございます。

この中で、開発業者の出店意欲に基づく計画作成の助言や、特に大きな課題である農業振興地区の除外や農地転用などについて、国や県など関係機関との協議を積極的に行うなどしているところでございます。今後につきましては、許認可が得られるよう、関係開発業者のより具体性のある計画立案が待たれるところであり、それを待って積極的に市として支援しながら、国道349号バイパス沿道のにぎわい創出に努めてまいります。

以上でございます。

議長（茅根猛君） 政策企画部長。

〔政策企画部長 佐藤啓君登壇〕

政策企画部長（佐藤啓君） JR水郡線の利用動向、課題及び今後の利用施策についてのご質問にお答えをいたします。

初めに、まず水郡線の利用状況についてでございますけれども、常陸太田駅における乗客数を見ますと、平成18年度は1,318人、平成20年度は1,234人、平成22年度は1,195人と減少傾向にございます。水郡線は、本市の活力向上や魅力ある都市空間づくりを進める上での生命線でございますので、地元利用者の利便性の向上、水郡線を利用する観光客の拡大、水郡線に対する愛着心の醸成といった3つの視点に立ちまして、利用促進のための施策を推進してまいりたいと考えております。

1つ目の地元利用者の利便性の向上といたしましては、JRに対して運転本数の増発や観光誘致策の実現、常磐線とのアクセス改善など、輸送力改善のための要望活動を引き続き行っていく一方で、常陸太田駅以外の谷河原駅、河合駅において、利用環境の改善を図る取り組みを現在進めているところでございます。具体的に申しますと、河合駅につきましては、公民館敷地を利用して駐車場の拡張整備を進めております。また、谷河原駅につきましては、駅西側の市道に隣接する農地を今年度取得をいたしましたので、今後市道整備にあわせまして駐車場等の整備を行い、通勤・通学者の安全確保とパークアンドライドの充実を図ってまいります。

2つ目の水郡線を利用する観光客の拡大といたしましては、市外から水郡線を利用して常陸太田市を訪れていただくための取り組みとして、JRとの連携による「駅からハイキング」の実施やイベント列車の招致、駅前広場での市観光物産協会や地域団体との連携による魅力あるイベントの開催、さらには路線バスのアクセス改善や、駅を起点とした市内を循環するバスの運行、観光タクシーの運行など、運行事業者との連携による二次交通の充実についても検討をしております。

さらに、3つ目の水郡線に対する愛着心の醸成といたしましては、昨年7月の新駅舎リニューアルオープンの際に、沿線の住民や地域団体、水郡線利用者、市内の高校生などの有志の参加のもとで、「太田線と駅を愛する市民応援団」が結成をされております。これまでに、駅前広

場を活用したイベントの開催や「駅からハイキング」、イベント列車運行への協力、駅舎コミュニティスペースに飾りつけているつるしびなの作製などに、高校生から地域のお年寄りまで幅広い皆様の参加をいただいているところがございます。これらの活動を積極的に支援し、活動の輪を広げてまいりたいと考えております。

以上でございます。

議長（茅根猛君） 産業部長。

〔産業部長 井坂孝行君登壇〕

産業部長（井坂孝行君） 町のにぎわい活性化の観光、歴史的遺産、史跡などのおもてなしの心ある環境整備対応についてのご質問にお答えいたします。

まず、佐竹寺への来訪者の駐車場やトイレの整備につきましては、地域の方々と協議を重ねてきたところであり、引き続き地域の理解と協力体制を図りながら、計画的な整備を検討してまいります。また、観光施設等への案内板の整備につきましては、平成24年度に整備を計画しており、観光パンフレットにつきましては現在、製作中であります。

おもてなしの心あるサービスの提供につきましては現在、西山の里桃源において、おもてなしの心の醸成と来訪者の心に響く良質なサービスが提供できるよう、販売促進コーディネーターを配置し、資質向上を図っているところであります。

次に、長谷町のカンブリア層については現在、移住交流推進支援事業の1つとして、中野区のホスピタリティツーリズム専門学校による常陸太田市における体験交流型旅行商品を開発しております。その中で、長谷町のカンブリア層をコースの一部として、「ジオ学習」を取り入れたプランを検討中であります。今後は、竜神峡を含めたジオパークを、着地型旅行商品として観光客の誘致を図り、交流人口の拡大を推進してまいりたいと考えております。

議長（茅根猛君） 市民生活部長。

〔市民生活部長 川上明文君登壇〕

市民生活部長（川上明文君） 資源リサイクルとごみ処理コスト低減についてのご質問にお答えいたします。

1点目の都市鉱山リサイクルの取り組みの中で、本市におけるリサイクルの現状についてでございますが、現在、携帯電話、デジタルカメラ、携帯用ゲーム機などのいわゆる小型家電につきましては、金属、その他のカン類に分類をし、回収処理をしております。このため、レアメタル等が含まれている小型電子機器の排出量につきましては、把握ができておりません。リサイクルの取り組み計画につきましては、国において、小型家電回収に係る新制度の施行を目指す方針が示されておりますことから、日立市などが取り組みました環境省のモデル事業などを参考にするとともに、県においては平成24年度に、仮称ではございますが、いばらき小型家電回収研究会を立ち上げる予定でございますので、本市といたしましてもこれに参加し、効果的な回収方法を検討し、資源の有効利用、有効活用に積極的に取り組んでまいりたいと考えております。

続きまして、2点目のごみ減量化、再利用の取り組みについてでございますが、ごみ減量化

と再利用化の現状と課題につきましては、市清掃センターにおいて処理されたごみの総量につきましては、平成15年度の1万9,033トンをピークに、平成22年度は1万6,155トンと毎年減少傾向にあり、このうち瓶類、カン類、古紙類、ペットボトルなどを資源化している割合は、毎年11%前後となっており、さらに資源化を進める必要がございます。

ごみの減量に当たっては分別が基本でございますが、生ごみの水切りがしっかり行われていない、また新聞、雑誌、ペットボトル、トレイ、古紙類などが燃えるごみの袋に入れられている等の現状がございます。このことから、市民の皆様のご協力をいただきながらのごみ分別をしっかりと行っていくことが必要であると考えております。

次に、減量化と再利用化の促進施策についてでございますが、議員ご発言のように、ごみ減量化、再資源化を図ることは、ごみ処理費用の低減や循環型社会を推進する上で非常に有効であると考えております。そのためには徹底した分別に取り組み、資源化できるものを燃やさないことでごみの量を減らす必要がありますことから、現在、市民環境会議ごみゼロ推進部会の取り組みといたしまして、順に町会の皆様にもモデル地区をお願いし、集積所にペットボトルの収集ネットを配置し、指定袋によらない収集を具体的に実施しているところでございます。さらに、市民環境会議におきましては、ただいま申し上げましたごみゼロ推進部会を中心に、すべての資源物の収集方法等について検討を行っているところでございまして、平成24年度には市民の皆様のご協力をいただき、新たな資源物回収体制を整えてまいります。

次に、焼却場のコスト低減についてのご質問にお答えいたします。初めに、焼却炉運転管理委託料の補修費の費用の推移と費用低減の取り組み、現状についてでございますが、焼却炉運転管理委託料の過去5年間の推移を申し上げますと、平成19年度が1億7,167万5,000円、平成20年度から平成22年度の3年間でそれぞれ1億7,010万円、平成23年度が1億6,117万5,000円となっており、平成23年度は平成19年度と比較いたしまして、1,050万円のコスト低減を図っております。

また、炉補修費につきましては、その補修の内容により、年度による変動がございますが、平成19年度が2億5,137万円、平成20年度が2億1,682万5,000円、平成21年度が1億7,900万円、平成22年度が1億7,755万5,000円、平成23年につきましては1億9,372万5,000円を見込んでおり、平成23年度は19年度と比較いたしまして5,764万5,000円の低減を図っております。なお、光熱水費等を含めました全体処理経費につきましては、5年前の平成19年度7億8,309万3,000円と比較いたしまして、平成23年度は7億301万8,000円と8,007万5,000円のコスト低減を図っております。

また、費用低減取り組みの現状につきましては、灰溶融炉の停止による電気料、灯油代等の光熱費あるいは運転委託料の削減のほか、リサイクル施設の運転方法を見直し、搬送コンベアに廃棄物を一定量貯留し、機械の運転を一日運転から、現在は1日4時間程度の運転とするなどの工夫により、電気使用量の削減等についても取り組んでございます。今後も焼却場全体のコスト低減に向けて、引き続きこれらの取り組みを行いますとともに、市民の皆様のご協力をいただきながらごみの分別収集の徹底に取り組み、ごみの減量化を推し進め、現在の焼却炉利

用運転を1炉運転にする等の運転方法の見直しについても検討し、さらに焼却場のコスト低減に努めてまいりたいと考えております。

議長（茅根猛君） 午前の会議はこの程度にとどめ、午後1時まで休憩いたします。

午前11時47分休憩

午後1時01分再開

議長（茅根猛君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

5番鈴木二郎君。

〔5番 鈴木二郎君登壇〕

5番（鈴木二郎君） 2回目の質問をさせていただきます。ただいまご答弁、大変ありがとうございました。2回目の質問につきましては、それぞれの項目ごとに要望と再質問をさせていただきます。

まず、まちのにぎわい活性化の1つ目の、駅周辺及び観光交流の促進の1点目のJR常陸太田駅周辺のにぎわい創出については、いろいろと取り組み計画されており、理解をいたしました。ハード的な取り組み計画について、1点要望を申し上げます。駅東側周辺の電鉄跡地の土地利用に向けて、商業、民間業者を誘致するため各方面に働きかけ、取り組んでいくとのことですが、やはり進出するに当たっては、具体的にいつまでに何をどのように取り組んでいくのか、具体的な推進計画、スケジュールを策定して、計画的に推進、対応いただくよう要望をいたします。

2点目のJR水郡線の利用促進であります。2点再質問させていただきます。

1点目は利用乗車数が年40人減少となっており、減少傾向にあるとのことでございますけれども、これは利用促進に取り組んでいるにもかかわらず、市の人口減少等の要因もあり、やむを得ないと思われませんが、これら減少に対する分析、見解、見通しについてどのように考えておられるかお伺いをいたします。

2点目は水郡線利用促進会議、これの取り組みの活動状況についてお伺いをいたします。

次に、3点目の観光史跡地のおもてなしの心ある環境整備対応における、佐竹寺のトイレ、休憩所の整備につきましては、要望としまして、これらは個人の財産、私有地とのことで大変難しい点があるかと思えますけれども、多くの来訪者もあり、常陸太田市を県内外に広く知っていただくPRの絶好の機会でもありますので、大切なお客さんへのおもてなしの対応であるとの心をもって、お寺側と地主側と地域等との協力、連携のもとに粘り強く話し合い、理解を得ることがぜひとも必要と思えますので、継続してぜひ実現に向けて鋭意推進していただくよう要望をいたします。

国道349号バイパス沿線の活性化の取り組みにつきましては、理解をいたしました。要望としまして、常陸太田市の将来の新たな商業施設地区の中心として、市民の大きな期待がありますので、ぜひとも早期実現に向け、重点的な取り組みを要望いたします。

次に、資源リサイクルとごみ処理低減の1つ目の都市鉱山リサイクルについては、経済産業

省と現在、環境省が検討中の平成26年4月施行予定の使用済み小型電子機器回収促進法案、すなわち小型電子機器リサイクル制度、これに先行して、茨城県の小型家電回収研究会に参加して検討していくとのことで理解をいたしました。一般的に都市鉱山リサイクルに当たって、課題は回収率が低いと言われております。その理由としましては、携帯電話等の個人情報の漏出を心配する人が多いことにあるそうであります。小型家電回収研究会に参加し、取り組みに当たって、要望事項としまして、情報の抜き取りはされない管理処理の構築、あるいはまた回収ボックス等の盗難防止等の施策を講じられ、対応されますよう要望をいたします。

ごみの減量化と再利用化につきましては、市民環境会議で検討していくとのことでございますので理解をいたしました。

3つ目の焼却場のコスト低減につきましては、低減にいろいろな施策を講じ、取り組みが工夫されておりますけれども、予算金額も大きいことから、さらなる低減に向けた取り組みが必要と考えます。そこで、低減施策の取り組み提案としまして、外部のエネルギー管理士等の専門家による施設の省エネ診断、指導・調査・分析などの診断チェックも有効ではないかと考えます。この外部の専門家等による診断チェック等を検討していただきますよう、要望をいたします。

以上、再質問と要望を申し上げ、私の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

議長（茅根猛君） 答弁を求めます。政策企画部長。

〔政策企画部長 佐藤啓君登壇〕

政策企画部長（佐藤啓君） JR水郡線の利用促進関係の2回目のご質問にお答えをいたします。まず、1点目のご質問ですけれども、水郡線の利用者数が近年減少傾向にあることをどのようにとらえているのかとのご質問ですけれども、先ほどの答弁の中で、さまざまな視点から利用促進のための施策を講じていく旨のご説明をさせていただきましたが、それらの取り組みを継続的かつ重層的に実施をしていくことによりまして、まずは減少傾向に歯止めをかけるとともに、県や沿線自治体、JR東日本と連携を図るとともに、1人でも多くの市民に利用促進のための活動に参加協力をいただくことで、利用者数の増につながるような取り組みを継続して実施してまいりたいと考えております。

また、議員のご指摘にもありましたとおり、水郡線の利用者数の減少の背景には、少なからず当市の人口減少傾向があるとも考えられますので、あわせて人口減少対策にも積極的に取り組んでまいりたいと考えております。

次に、2点目のご質問ですけれども、茨城県水郡線利用促進会議における取り組み状況についてでございますが、こちらの会議は県知事を会長といたしまして、沿線6自治体及び財団法人グリーンふるさと振興機構で構成されている組織でございます。水郡線の運行条件、利用環境の改善やイメージアップなどについて、JR等関係機関に対して要望活動を実施するとともに、首都圏向けのPR活動や観光イベントの開催、イベント列車の運行、「駅からハイキング」などによる利用促進の取り組み、さらには情報誌、ホームページなどで情報発信などを行って

おります。

最近の具体的な取り組みとしましては、昨年「奥久慈清流ライン」という愛称の募集、また決定を行ったことや、昨年7月の常陸太田新駅舎の竣工式に合わせてレトロ列車「ハッスル黄門号」が入線したこと、また鯨ヶ丘ひなまつりの時期に合わせて、3月下旬に実施される「駅からハイキング」、さらには、いばらき産直市や匠のまつりなどにもPRブースを出店するなど取り組みを行っているところでございます。

以上でございます。